

まえがき

アジアモンスーン地域の自然的・社会的条件の下で、水循環変動という自然的要因に加えて急激な人口増加による農業用水需要の増大や、都市開発、産業発展などの社会的要因に起因した治水・利水・環境等の様々な水問題を解決するためには、総合的かつ実践的な水マネジメントを実施する必要がある。そのためには、科学技術の観点の研究開発のみならず、人文・社会科学的な立場でのアプローチが必要である。これは、地域住民の水管理に対する要求をどう把握するか、情報の開示・共有を具体的にどのように行うか、水マネジメントについて様々な主体がどのように合意を形成するか、といった課題の解決を目指すアプローチである。

したがって、科学技術的な研究開発に加えて、人文・社会科学的な研究開発も同時に行われてこそ、実際の現場での水の管理・運用を含む水マネジメントが、個別開発技術の適用のような段階まで含めてスムーズに実行されるといえる。また、どの国にもその国固有の歴史・文化から形成された水に関する「秩序」、「制度」が存在し、実際の水マネジメントはそうした国ごとの秩序の下で対策シナリオを構築しなければならない。さらに、国際河川を抱えるアジア地域においては、国内はもとより、河川流域の全ての国々が協力しあって国を超えたガバナンスの枠組みを確立する必要がある。

本報告書は、アジアモンスーン地域における水政策の将来展望に向けて、日本のこれまでの治水・利水や河川環境に係わる歴史的背景や制度・施策について整理し、さらにアジアモンスーン地域の水問題及び法制度について調査した上で、各国の経済力、技術レベル、河川流域の相違などを考慮した適用可能で具体的な対応策を検討し、その成果を取りまとめたものである。

なお、本調査において実施した海外現地調査については、科学技術振興調整費・戦略的創造研究推進事業 CREST・研究領域「水の循環系モデリングと利用システム」（研究総括：虫明功臣）のなかの研究課題「社会変動と水循環の相互作用評価モデルの構築」（研究代表者：寶 馨）において実施したものである。

平成 18 年 12 月

国土技術政策総合研究所河川研究部
流域管理研究官 金木 誠